

大洗応援隊！ ～情報発信基地&人と人をつなぐ場所「ほげほげカフェ」～

ボランティア

地域交流

代表者：教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース 3年 小野寺 藍

連携先

大洗町役場、髭釜商店街、大貫商店街、
永町商店街、曲がり松商店街、
まいわい市場、大洗町漁業研究会、
大洗町宿舍青年会

顧問教員

伊藤 哲 司

プロジェクト参加者

齊田 菜穂 (人文学部 4年)
塚田 千尋 (人文学部 4年)
小野寺 藍 (教育学部 3年)
柴田 裕輝 (理学部 3年)
白土可奈子 (人文学部 3年)
上野嘉那子 (人文学部 2年)
後藤 愛理 (人文学部 2年)
沢村 浩平 (理学部 2年)
根本 雄輝 (工学部 2年)
春里 桃子 (人文学部 2年)
比屋根利紀 (人文学部 2年)
加藤 成美 (人文学部 1年)
武田 佑穂 (人文学部 1年)
畠田慎太郎 (人文学部 1年)
原 貴大 (工学部 1年)
細萱 真希 (人文学部 1年)
本田 和之 (工学部 1年)
増山 潤 (人文学部 1年)
南 陽子 (人文学部 1年)
宮崎 泉 (人文学部 1年)
森 彩織 (人文学部 1年)
山本 大介 (人文学部 1年)

プロジェクトの申請内容

●プロジェクト概要

本プロジェクトは、大洗町・髭釜商店街と連携し、学生を中心に地域住民が集い情報交換や交流を行うにぎわいの拠点としてのカフェを運営することを中心とする。

「大洗応援隊!」とは、東日本大震災を受け大洗町の復興支援を行うことを目的に2011年5月に創設された組織である。大洗町での活動に関心を抱いて集まった学生や社会人によって構成され、大洗のさらなる復興をめざし、防災を含む町づくりの視点から独自の取り組みを行っている。2012年9月より髭釜商店街の空き店舗を活用した集いの場「ほげほげカフェ」を運営、さらに2013年3月より「みんなの声聞き隊」を結成し、町の産業に携わる方や住民を訪問し町の声を集める活動を行ってきた。

今年度は、これら2つの活動を通して見えてきた町のニーズを踏まえカフェの運営・機能を見直し、情報発信と地域住民の交流の場を増やすことに重点を置き、地域交流の拡充をめざして本プロジェクトを行っていくものとする。

●目的

大洗町の地域交流の拡充及び商店街の情報発信

●本年度の目標

◇地域住民の交流の場

地域住民がカフェに入りやすいような雰囲気作り、カフェに来るきっかけになるようなイベントを企画する。それにより、ほげほげカフェが地域住民の集いの場・情報交換の場になることを目指す。

◇商店街の情報発信

商店街の魅力を紹介できるようなマップを製作する。そのマップにより大洗町内外の人が商店街を訪れるようになり、商店街が活性化することを旨す。

●期待される効果

◇地域住民の交流の場

地域住民が情報を共有する場・顔の見える関係を築く場となるだけでなく、住民自身が地域の魅力を発見・再認できる場所になる。それによって、住民同士・町そのものに対する関心を高め地域の活動をより活性化させることができ、日常防災にもつながる。

◇商店街の情報発信

商店街の情報を発信することで、大洗町内外に商店街の魅力をアピールする。商店街の魅力を学生独自の視点から発信することにより、観光客が商店街に興味を持つようになる。

◇学生の影響

また、学生が地域の取り組みに参入することで、町の賑わいの増加が期待できる。学生自身も地域の活動に関心を持ち、広い視野を獲得することができる。



「応援隊メンバー集合！」

プロジェクトの実施概要

<「ほげほげカフェ」運営>

～1月	毎週土曜日
-----	-------

<その他>

6月	大洗商店街マップ情報収集開始
7月	Twitterによる広告開始
8月	大洗商店街マップ（仮）完成
9月	大洗商店街マップの原案図完成、確認作業開始
11月	ルービックキューブ講座（ルービックキューブ協会さんと共催）
	あんこう祭り&ポスターディスカッション展示
	大洗商店街マップ確認作業完了
12月	商店街マップのデザイン再構築
1月	ほげほげマップ最終版完成
	カフェ内にほげほげマップの設置
	商店街の店舗へのマップ配布開始

プロジェクトの成果報告

●今年度得られた成果

◇ほげほげカフェ

<目標の変更>

「ほげほげカフェ」は、プロジェクト概要の中でも述べた通り、髭釜商店街にある空き店舗

を活用して学生が運営しているカフェのことである。今年度は天候等の影響がない限り、毎週土曜日にカフェを運営することができた。しかし、運営を継続する中で、目標を変更する、方針を転換するなど色々なことがあった。

プロジェクト開始当初は、地域住民の集いの場となることを目標に活動していた。店先で声を掛けるなどの活動を行っていたが、カフェと同時進行で商店街マップの情報収集や商工会の方との話し合いを行っていたうちに、自分たちの目標と地域が求めるカフェの形が違っていることに気付いたのである。

というのも、情報収集を行っていると、商店街の方々はカフェに対し「地域住民の集いの場」ではなく「観光客の休憩所」となることを求めているのではないかと思えてきたのだ。応援隊の中で話し合いを重ね、地域が求めていることをやるべきだという結論に至り、カフェの運営方針を見直すこととなった。応援隊のネットワークを活かし社会人の方にも相談をしたが、「まずは地域が求めていることをやり、それを自分たちが目指す方向に繋げればいい」というアドバイスをもらい、運営方針を変更することに決めた。



「カフェ運営の様子」

＜観光客向けのカフェ＞

運営方針を転換してからは、観光客の休憩所となるようなカフェを目指して運営し、新たな

宣伝方法も取り入れた。Twitterを利用することで広範囲に情報を発信し、ポスターを掲示することでカフェの前を通った方々にもアピールした。また、大洗を舞台にしたアニメの盛り上がりも利用し、カフェ内にイラストなどを描くことができる掲示板も設置した。このように宣伝に力を入れた結果、カフェの知名度が上がり、訪れる方々が増え、休憩所として利用されるようになっていった。

その結果、カフェで休憩し、商店街の広範囲にお客さんが行くようになった。また、休憩所としてだけでなく、カフェを訪れたことがきっかけで友達が出来たという声もあり、交流の場としての機能も果たしている。



「カフェ運営の様子2」

◇商店街マップ

＜マップ完成までの道のり＞

大洗町にある4商店街101店舗の魅力をアピールするための商店街マップを作製した。1軒ずつ直接伺い、営業時間やアピールポイントなどを聞いて回った。長い時は1軒につき1時間掛かることもあったが、商店街の方々と色々な話をする中で応援隊について知ってもらうこともできた。

我々も商店街について色々を知ることができた。お店の基本的な情報だけでなく、歴史、特徴、そのお店に掛ける情熱など知ることができ、観光客からお店の場所やおすすめなどを聞かれ

るとすぐに答えられるようになった。



「商店街マップ 表」

＜完成後のマップ配布＞

マップが完成してからは、商店街に一部ずつ配るほか、観光客に配っている。マップについてもTwitterで宣伝したほか、マップを手にとった方が宣伝してくださり、マップの知名度が上がった。マップをもらうために遠方からカフェに来て下さる方や、マップを手にとり商店街を歩いている姿を見ることもあり、商店街の魅力を発信することができている。

今後は増刷やマップを活用したイベントなどを行い、作って終わりにならないようにする。



「髭釜商店街のイベントの様子」

●外部評価

＜外部評価の収集方法＞

- ・カフェの感想ノート
 - ・マップの情報収集の際の聞き取り
 - ・Twitter
 - ・Facebook
- 等

今年度は、昨年度の継続的な要素が大きかったこと、プレリリースなどの報道機関向けの広報を行わなかったこともあり、メディアからの取材はほとんどなかった。しかし、マップ作成における情報収集やイベント補助、継続的なカフェ運営を通して、商店街を中心とした住民の方や観光客の方の間での認知度は高まっている。

今後はプレリリースの作成などを行い、積極的に活動の告知、広報を行うとともに、アンケートや聞きまわりなど、ニーズをより把握するための取組を行いたい。

＜メディア取材＞

読売新聞 1月6日朝刊

＜住民の方からの声＞

「「ほげほげカフェ」が何をやっているのかわからない。そもそも自分たちがやりたいこと、意味とは何なのか。」このような言葉を受けて、運営の方針転換に踏み切った。

「学生たちがこうやって頑張っている。若い人たちが町に加わるだけでも、にぎやかになるね。自分たちも、頑張ろうと思えるよ。」

＜来店者からの声（感想ノートより）＞

「町内に、この様にお手軽な価格で休める所があるのは良いですね。頑張ってください。」

「ほげほげカフェのドリンクと店員さんの笑顔で身も心もあったか！！また来ます。」

「心がかかっていると、大洗に行きたくなるのです。いつも気さくにもてなしてくれてありがとうございます。」

●目標達成度合

目標	達成度	成果
カフェ運営	◎	基本的に毎週土曜日に運営することができた。カフェに関する情報発信も行い、多くの観光客に来てもらうことができた。
カフェでの講座開催	△	カフェに来るきっかけづくりとして、2か月に一回住民を講師にした講座を開催する予定だった。しかし、運営方針を転換してしまっただけのため、優先順位が下がり、ルービックキューブ講座一回のみになってしまった。
商店街マップの作製	○	プロジェクト開始当初の完成予定は9月だったが、実際に完成したのは1月だった。完成はしたものの、計画の見通しが甘かった。



「ボランティア活動報告会」



「講座の様子」

●今後の展望

今年度はカフェを継続して運営しながらも、twitterやfacebookを通して新たな繋がりを作ることが出来た。また、マップ作成を通して地域住民と交流ができ、充実した一年となった。今後、活動を続けていく上で、町民の方々との話し合いをさらに深めることが必要である。今までの活動を続けつつ、ニーズに応じて様々な活動にチャレンジし、グループ内のネットワークを活かして学生と地域で協力し、大洗の更なる活性化を目指す。

